

令和3年12月8日 議会改革特別委員会 議事録
10時50分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日城 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○網谷委員長 それでは皆さん定足数に達しておりますので、ただいまより議会改革特別委員会を開会といたします。

まず最初に、委員の皆さんに確認の意味で、先の市議会選挙で無投票になったことによりまして、議員定数問題を軸に協議するということが委員会の中で確認されております。

ということで、定数の問題の中で、定数変更の意見が多々されることがございますので、今現在の時点ではゼロベースということがございますので、その委員定数問題に関するいろいろな方面から、協議していただけたらと思いますので、その辺のところを御了承お願い申し上げます。

それでは日程第1、議員定数問題に関する議員(16名)アンケートについてですが、前回の委員会のすぐ終わりに、私、西村副委員長、それから議長と3人で協議した結果、全議員16名のアンケートは実行するという事に協議の中では決定されております。

そのことについて皆様方には、報告がてらそれについての協議と言いますか、それでよろしいかということをご諮ってみたいと思いますが、いかがでしょうか。

小中委員。

○小中委員 ここに何か、案まであると思いますけど。

○網谷委員長 今さらの協議ですけれど。

○小中委員 いやいや、とにかくアンケートをすることは全然異存はありません。

別にそれが記名というか、名前を出すか出さないか、それは無記名でもどちらでもいいんですけど、私は記名しますけども、どちらでもいいと思いますし、アンケートをやることに異存はありません。

○網谷委員長 今、小中委員が案のほうに目を通されましたので申し添えますが、一応無記名ということに決めておりますので、そのところは御了承願います。

ほかになければ。ありますか。このアンケートについて、する必要ないとか、何とかかんとかという意見がございましたら。

ないということで、一応、実行するという事でよろしいですね。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 それじゃ、決めさせていただきます。

それでは議員定数問題に関する議員全16名のアンケートについて実行するというので、皆さん、この委員会で確認させていただきました。

次に、設問についての意見調整をさせていただきます。

先ほど小中委員が言われましたが、一応案としてと言いますか、たたき台として副委員長と相談をしまして、サイドブックに載っていると思いますが、そのような方向にさせていただけたらと思いますが、いやいやこれはまだ項目が少ないとか、これはいらんとか、そういう意見がありましたらこれから皆さんと協議するわけですので、何か表記についての、項目についての意見がございましたらお願いします。

小田上委員。

○小田上委員 この場でこの質問項目を決めて、もうこれで行くというのを今日決めるのか、ある程度意見が出たところでまた持ち帰って検討するのかなというところで議論の方向も変わるかなという気もするんですけど、そこはどのように考えられていますか。

○網谷委員長 我々正副委員長の判断では、今日中に決めたいということでございます。時間もスケジュールも切羽詰まってくることもあろうかと思っておりますので、方向性だけを決めたいと思っておりますので、意見があれば。

日域委員。

○日域委員 ここに3つありますよね、設問が。要するに無投票でなかったら、多分こんなことにならなかったと思うんですけども、この2番目の設問ですけど、議員の成り手不足じゃなくて、無投票を避けるための打開策と書いてほしいなという気はします。

○網谷委員長 これは日域委員、1番目に無投票との関係と書いてもらいますが、これとは。

日域委員

○日域委員 その上にですよ、議員定数問題と前回の市議選による無投票との因果関係というのは、これはそのように書きますよね。そこで議員の成り手不足が突然出てくるわけですけども、やっぱり無投票との関係があるわけじゃけ、その要は定数を減らすこともそうでしょうし、それは立候補する人が多ければ当然無投票にならんわけですけども、それは言いようがないじゃないですか、分からんけん。じゃけん取りあえず定数を減らせば無投票の可能性は格段に減りますよね。じゃけんそれは分かるんじゃけど、議員の成り手不足の打開策じゃなくて、ここはやっぱり無投票を避けるための打開策と書いてもらったほうが、私はすっきり受け入れられるんですけど。

○網谷委員長 今の日域委員の発言に対しまして、いかがでしょうか。

小中委員。

○小中委員 要するに無投票じゃなかったら定数削減をする必要はないわけですよ。日域委員がおっしゃるように、確かに無投票にならないようにするためにはどうしたらいいのかということ、成り手不足云々じゃなくて、無投票にしないために、ほかに定数削減以外にどういう方法があるかと、そういうのを思いつくまま、そういうのがあれば書けばいいんじゃないかと思えます。成り手不足と言っても、非常に抽象的なものになってしまうので、要するに無投票回避のためにどういう方策が考えられるかでもいいのではないかと思いますけれど。

- 網谷委員長 要するに2番目が、無投票をなくすためとか、回避されるためという。
- 小中委員 だから無投票をなくすためには、定数削減以外にどのような方法があるかということ。
- 網谷委員長 定数削減以外も入れますね。
- 小中委員 それはいいんですけど、別に入れても入れなくてもいいんですけど、だからほかには最終的に定数削減しかないわけなので、それ以外に何か有効な方法があるかどうかというのを、だからまず考える必要はあると思うので、だからそういうことを思いつく人がいるのであれば、書けばええんやないかと私は思いますけれど。
- 網谷委員長 順番に行きましょう。
- 1番目の、議員定数問題と前回の市議会議員選挙による無投票との因果関係の、この理由と言いますか、皆さんが感じたことを文章にさせていただくという意味なんですけど、この項目はよろしいですか、1番目の。
- 原田委員。
- 原田委員 ですからこれは、原因をまず最初に、無投票との因果関係ということですから、どういう原因でこうなったのかということを探るといって、皆さんがそれぞれに、こういう理由で無投票になったんじゃないかという原因を、皆さんで。
- その中に例えば成り手不足とか出てくると、その成り手不足というものを、その後の、今からのスケジュールの中にも成り手不足打開策とありましたけれど、そういうものが多く出てくるようだと、じゃあ成り手不足について考えるということは必要かなと思うんですけど、今、小中委員も日域委員もおっしゃられたように、やっぱり無投票についての打開策というのはやっぱり、それが一番打開策と言うのかな、無投票を回避するための方策を考えるということは大事なと思いますので、その原因をまず1番のところで皆さんそれぞれ分析した上で、言ったら無投票だったということは厳然たる事実ですから、それについてじゃあどういふふうに対処するべきなのかというのをやっぱり2番目にすると。
- 仮にももしその原因のところで成り手不足ということがたくさん出てくるようであれば、それもまた何かこの先考えるべきことなのかなというふうに思いますので、今の小中委員と日域委員の意見に賛成なんですけど、そういう形でアンケートをしたほうがよろしいのではないかなというふうに思います。
- 網谷委員長 ということは1番目の設問の中に、2番目が含まれるという意味でよろしいですか。
- 原田委員 それはアンケートを取って見ないと、因果関係が成り手不足だというふうなお答えになられる方もいらっしゃるかも分からないし、そうじゃないかも分からないので、少なくともこの成り手不足の打開策というのは外して、やっぱりお2人言われたように、この無投票を回避する方法、何と言ったらいいか、文章は分かりませんが、無投票を何とかしないといけないと、この問題を解決しないといけないので、そこを2番目に持つていくので私はよろしいのではないかなと思います。
- 網谷委員長 ということは、1でいろんな意見を聞いても仕方ないんですね。具体的に2番目をどういう文言にするか、それを皆さんでできれば。議員の成り手不足をなくすために

とか、そういう文言でよろしいですか、どうですか。

これは大竹市に限ったことではないんですが、大変難しい問題ではあるんですよね、これ、いろんな問題が入ってきますから。

日域委員。

○日域委員 いや、じゃけん成り手不足じゃなくて、無投票を避けるためにはどうしたらいいですかと、ストレートにそう書いてほしいなど、具体的に言っているんですけども。

小中委員も原田委員も一応、同じ考えだということを言ってくれたんですけども。大体それで半数に達しているの。

○網谷委員長 ということは、無投票をなくすためよろしいですか、それじゃあ単純に。
(発言する者あり)

○網谷委員長 それでは2番目の文言は、設問は、無投票を回避するための打開策、これでよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 それでは1番と2番は決まりました。

3番目に議員定数、私、現状維持か定数削減と書いたんですが、定数増はないと思いますので。

小田上委員。

○小田上委員 すいません、定数増減が、定数増がないということはゼロベースだとないと思いますので、議員の定数についてと、その理由とか影響、というふうに書いたほうがいいのかなとは。

○網谷委員長 議員定数と、何です。議員定数についての影響。

○小田上委員 議員定数、具体的な数字を挙げるもよしですけど、理想とするというか、なので言いたいのは、現状維持と定数減だけしか選べないという状況を回避してほしいです。

○網谷委員長 ということは、小田上委員、この括弧は外した方がよろしいということですか。括弧の中の文言は。

小中委員。

○小中委員 だからそういうのじゃなくて、定数問題に対するお考えはとか、要するに、増やしたければ増やしたいだし、減らしたけりゃ減らしたいだし、現状維持やったら現状維持、だから定数問題に関する考えを聞かせてくださいみたいな、そんな設問でいいんじゃないかと思いますけれど。

○網谷委員長 よろしいですか。

(発言する者あり)

○網谷委員長 議員定数の適正化について。適正化でもいいのかな、在り方ね。決めてもらわんと、もう決めたいんですから。今何と言いよったかね。

(発言する者あり)

○網谷委員長 それでは3番目に、議員定数の在り方についての考え。よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 それではこの3つの設問が決まりました。

そのほか、どうでしょうか。入れておきますか。入れとったほうがいいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 括弧の中はいらんですよね、それじゃあ。

(発言する者あり)

○網谷委員長 その他だけで。その他の意見と書いておきましょうか。ということで。

それではもう一度確認します。一応、最後はその他の意見ということで。

議員定数問題と前回の市議会議員選挙による無投票との因果関係、これはよろしいですね。2番目に、無投票を回避する打開策の意見ですね。それから、議員定数の在り方についての考え、これが3番目。それから4番目がその他の意見。これで一応設問の項目はよろしいですね。

それでは次に、全議員にお知らせする手段といたしますか、それについてでございますが、ここに委員の方、議長を含めて9人は、もちろん正式文書で要請することにいたしまして、今委員外の方が一応7名おられますよね。これはまた順序としましては、まず会派の皆さんが口頭なりでお伝え願ひまして、その後に事務局より正式なメールを発信するというところでよろしいですか、方法としましては。

よろしいということで、よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 それでは、そういうことにさせていただきます。

それから次に、これが確認できますと、提出期限になります。

これを次回の委員会の日にちにもよろうかと思ひますが、どうでしょうか。次回をまず決めましょうか、次回の委員会の日にちを。

来年の1月の週じゃったら、1月10日の週になりますね。局長、議長のスケジュールはどうなってますか。

局長。

○三上議会事務局長 1月10日の週ですが、14日に臨時会の議案の事前の説明がある以外は、月、火、水、木は特に予定は入っておりません。

以上です。

○網谷委員長 12日ぐらいはどうですか、皆さん。12日水曜日。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 オークーですか。それでは次回は、令和4年1月12日水曜日。

これに向けての提出期限を年内にしますか。年明けて余裕を持たせますか。

○小中委員 事務局がそれをまとめられる、事務局のそれをアレンジしたらいいんじゃないんですか。

○網谷委員長 でしたら、御用始めが4なのかいね、これは。4日か5日ぐらいになる。

局長。

(発言する者あり)

○網谷委員長 それでは年内は御用納めは何日になりますか。

(発言する者あり)

○網谷委員長 28日。どうせメールで入れてもらうんだから。

ということで年内、メールで入れていただきますので、年内に入れてもらうたら。

年明けにはサイドブック스에載せていただいたらよろしいかと思ひます。年内に載せてもらってもいいんですが、上がり次第サイドブックスに入れていただくように。よろしいですかね。

そういうことで、皆さん正月の日には時間がありましたらしっかり皆さんの意見を熟読していただきまして、次の委員会にいろんな意見を持ち寄っていただければと思ひます。ということは。

○賀屋議長 年内に例えば31日に送っても、事務局おらんけ、サイドブックスに入れるということはできんけ、作業としたら集約をせないけん。それは年明けに作業があると思ひ。第1週ぐらいまでかかって。

○網谷委員長 暫時休憩いたします。

11時13分休憩

11時13分再開

○網谷委員長 会議を再開します。

局長、今方法論ですよ。サイドブックスに皆さんの意見を載す、これは書いた時点でそのままアップするわけですか。

ということは集約することもなしに、そのままもう皆さんのメールをアップするということなので、時間はかからないということなんですよ。

(発言する者あり)

○網谷委員長 度々すみません。今、そのまま載せればいいんですが、載せたところの発信先、一応無記名ということなんですから、誰がというのが残ると困るということなので、その辺のところはどうですか。

小田上委員。

○小田上委員 すいません、アンケートなんですけど、今決定された項目、これワードのデータを各議員にメールなりで送って、ワードのデータで事務局に返すということで、あとは事務局がPDFにしてサイドブックスに上げるという作業をすれば、別にメールの転記どうこうとか関係ないと思ひるので、その作業が例えば28日に全部メールが来てそろって、PDFにしてサイドブックスに上げるということが年内可能ということであれば、28日までの締切りということでもいいと思ひますし、それが難しいということであればもっと早くするのか、年内中にいうふうにしてその作業を年明けに持ち越すのか、それだけかなとは思ひますけれど。

あとはどうしてもメールとか、パソコン使ってというところが難しくて、直筆での提出をされる方については、打ち換える作業が要るのかどうか分からないんですけど、なるべくもうワードデータでやってもらうというところでスムーズに行けるんじゃないかなと思ひますけれど。

○網谷委員長 ということは年内じゃいけんから一応決めんといけんわけよ。年内じゃたらできんじゃろう、来てないんだから、登庁してないから、職員。31日ということになる

と。

小田上委員。

○小田上委員 すいません、なので年内にやりたいということであれば、事務局の転記作業等あるのであれば、24日、23日までに提出という形にしてそれをしてもらうのか、でもそれが簡単にささっと書けることでもないかもしれないですし、今来られてない方もおられたりするんで、であれば年内という形で取っておいて、作業を年越してから職員に、事務局にやってもらうということで、方法論としては、年内にどうしても載せたいと、年末年始に議員がどういう意見があるのか熟読したいということであれば早めの期限を区切るしかないですし。

○網谷委員長 ですから、今それをここは言いよるわけよ。

○小田上委員 なので、正直どっちでもいいです。

(発言する者あり)

○網谷委員長 局長、よろしいですか。

今、私の要望とすれば、皆さんには年明けたら意見が見れるような形にしたいわけですよ。ということは、メールが届いてアップするのには、いつがよろしいかということ。年内にアップするというのが、いつならよろしいかということ、聞いてみたいんですが。

局長

○三上議会事務局長 年内にということは、28日が御用納めなので、28日までにアップするということによろしいですか。

であれば、26日の日曜日までに出していただいて、27、28日で事務局で作業してアップをするということで、行けるんじゃないかと思います。

○網谷委員長 26日の日曜日までにメールを送信してほしいということですね。それならできるとのこと。

ということですが皆さん、26日の日曜日までに送信していただくということで、よろしいですか。

それでは提出期限が令和3年12月26日5時までということにさせていただきます。よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 ということで、それじゃあ決めさせていただきます。

原田委員。

○原田委員 ワードのデータを頂いて、あんまり長々と、アンケートでも例えばいっぱい書きたい人もいるのかも分からないですけど、1枚にまとめるということでもいいんですよ。長々と、2枚とかにならないように。

○網谷委員長 もちろん、できればA4。

○原田委員 要は2枚になってもいいのか、まとめてということなのかだけ、教えておいていただけたら。

○網谷委員長 意見の長い人はもう、仕方ないですよ、それは。なるべくコンパクトにA4の1枚ぐらいに収めていただけたら。

○原田委員 じゃあ1枚に収めるということで、分かりました。

○網谷委員長 それで今4項目ありますが、上の私が書いた説明文はもう要りませんから、もう少しまだ幅が取れると思いますので。字をもっと小さくすればまだ書けますから。

ということで、提出期限は令和3年12月26日曜日17時まで、お願いします。

それでよろしいですね。

小中委員。

○小中委員 26日、日曜日ですよ。日曜日だったら別に17時って。

○網谷委員長 まあ、26日中ということで。そういうことでお願いします。

27・28日と局の職員の方がアップしてくれますので、それ以後皆さんよく、皆さんの意見を。皆さんの意見といっても無記名ですから、誰それというのは分からんかと思いましたが、しっかり熟読して皆さんなりに判断していただければと思います。

以上でアンケートの件に関しては、よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 それでは日程第2、議員定数問題に関する活動方針（スケジュール）についてでございますが、まず議員定数問題の来年12月定例会上程に向けての簡単な文言を、私、前委員会で申しましたが、逆算してみますと10月の結論を出すというのでは、条例改正などの文書の作業もございますので、それに対する修正などもございますと、1か月早くして9月ぐらいまでには結論を出したいと私自身思いまして、前回の委員会で10月ぐらいのめどと申しましたが、9月ぐらいの委員会で結論を出したいというふうに変えさせていただきたいんですが、よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 その意味で、簡単なスケジュール表を示させていただいたんですが、サイドボックスに入っていると思いますが、見ていただけたらと思います。

これはこれだけを協議、もちろんメインにはこの定数問題がメインになろうかと思いますが、それに伴いまして皆さんがこれを延期したいとか、ここを調べたいとかいう資料など出ましたら、それについてもしっかりと協議していきたいと思っておりますので、できれば皆さん、よく資料を参考にしてという言葉がよく出るんですが、言われる方の意味は分かるんですが、できればそういうふうにご覧の方には資料を、言葉でだけではよく分からないので、資料を自分なりに、どう言いますかね、調べていただきまして提出していただいたらまたやりやすいんじゃないかということもございまして、そういう作業もこのスケジュールの中にいつでも入れて、私は差し支えないと思っておりますので、その辺のところを御了承いただければと思います。

今の、スケジュール的には9月には結論を出したいと思っておりますので、それに流れての項目的に書いてみたんですが、いかがでしょうか、これ。

10月、11月のほうは議運には諮らなければならないということで、12月議会の定例ということなんで、ということは9月にはもう結論を出さないけんような感じになろうかと思っておりますので、ほかに、これじゃいけん、まだまだこれを入れにやいけんとか、そういう意見があれば伺いたいと思っております。

小田上委員。

○小田上委員 すいません、アンケートをやると決まって、最初に提案させていただいたときに、2回アンケートを実施というふうに提案はさせていただいたんですが、そのアンケートを取る時期とかというのが、もし2回目をするということになればですけども、中間的なところで議論で変わってきたというのが見えるのかどうかというところで、どうなのかなと思うんですが、2回目やるかどうかを含めての議論をしていただきたいなとは思いますが。

○網谷委員長 今、小田上委員の中で2回やってはどうかというような。これ、最初の小田上委員の説明の中で、2回ということが入っていたと思いましたんで。今回12月にやって、2回目やるとすれば5月かなというぐらいに、私の計算ではそれぐらいに思っているんですが、いかがでしょうか。

まずやるかやらないかということで。

あと5か月、半年くらいたつとまた意見が変わって、これはこうじゃった、昨年にはこういう考えでこういうふうな文書を作ったんじやが、また変わったのというような方が出ないとは限りませんので、やるとすればもう6月ということになると、その、としますので、やれば。

どうですかね、議長。

○賀屋議長 状況を見て判断すればいいんじゃないかと。

○網谷委員長 今、議長の意見で、状況を見て3月から4月頃、もう一回やるかということを決めるということによろしいでしょうか。

今、2回目は、やるやらんは別にして状況を見て、もう一度皆さんの、16名の議員の皆さんの意見が聞きたいなということになりますと、そこでまた判断するということで。

そういうことにしてよろしいですか。

小田上委員。

○小田上委員 そうなるだろうかと、進捗状況も変わってくると思うので、そうなるかとは思いますが、そろそろかなというところで、一度アンケートを取るか取らないかだけ諮っていただくのだけ、お約束というか、どうしますかという議題にはのせていただきたいというふうには思います。

あと続けてなんですけど、この5月、6月分の議員の成り手不足に関する具体策って、これは変わりましたよね、さっき。変わったところに変更されるということでもいいのかどうか。

○網谷委員長 私思いつかんのですが、何かいいのがありますか。

小中委員。

○小中委員 ここはだから自動的に、無投票回避のための打開策ということになるという、単純にそれが置き換わるというか、置換されるというだけだというふうに考えればいいんじゃないかと思えます。

○網谷委員長 そうですね、今の小中委員に対してどうでしょうか。よろしいです。

北地委員。

○北地委員 ですから、アンケートの流れでこれを進めていけばいいのかなと思うんですけども、先ほどのスケジュールの流れで行くと、最初に原因を追求しましょうということですよ、アンケートの上でも。それで因果関係や、それを何回かやりましょうと。今度は無投票を回避するための方策について、議論すると。最終的に定数の在り方について、取りまとめを行って結論を出す、というような流れで行ったらどうなのかなとは思いますが。

○網谷委員長 そういう方向で、私もこのアンケートの一番下に書いてはおるんですが、このアンケートの資料は大変大きな参考資料になろうかと思しますので、常に、これからの結論を出すまでの間には、ついて回ろうかと思えます。そうした意味では、常に、これを参考にした皆さんの意見が出てくるものと思しますので、こういうふうにも文章にして出しておるんですが。これはもう何月何年間わず、結論が出るまではついて回ろうかと思えます。

ということで、今、成り手不足については先ほど申しましたように、あれでいいですかね。

○原田委員 因果関係、原因究明というところにそこまで、これ予定では4月までになっていきますけど、もう少し、1回では足りないかも分からないけど、3月ぐらいまでにして、もうさっきの2番目、3番目ですか、無投票になったこととかですね、定数問題とか、定数をどうするかみたいなことのほうの議論をもう始めないと、先ほどのアンケートというのは恐らく具体的にもう、今の今回のアンケートではなくて、具体的にもう議論を進めていく中で、具体的に皆さんが今の踏み込んだ内容のアンケートになるのではないかなと思われるので、そういうことを考えると、もうなるべく早く無投票の打開策でしたか、そういう問題とか定数どうするなんかというような問題に、入っていったほうがいいんじゃないかなと私は思っていますので、4月ぐらいからそういう、仮にその因果関係を2か月ぐらいとしたら、4月ぐらいからそういうのは議論していかないと、間に合わないんじゃないかなと私は思うんですが、いかがでしょうか。

○網谷委員長 今、原田委員が言われたように、それは私が表現の文章は違うんですが、結論に向けての具体策というのがそれに当たるんですが、それを私は7、8、9月と一応取っとるんですが、それじゃあ足りないという意味ですかね。

○原田委員 足りないということではなくて、アンケートを実施するのであれば、アンケートは先ほど言ったようにある程度具体的な、今度今の、今回のアンケートではなくて、具体性のあるアンケートを取られるんだと思うので、その具体性のあるアンケートをいつするかにもよるとは思うんですけど、それに向けてやっぱり皆さんの意見を聞いたり、データがあるならデータを見ながら、皆さんが議論をする時間を取って、それで具体的なアンケートに持っていくと。その具体的なアンケートを基に議論ということになってくると、早い目にそういう無投票になったときの打開策であるとか定数問題というのに、早く取りかかったほうがいいんじゃないかという意味です。

○網谷委員長 具体的な数字を出すという意味ですか、今言われたのは。

今言われたのが、3番目にさっき確認しました、議員定数の在り方についての考えに、

それに入るんじゃないですか、どうですか、入らんですか。定数についての在り方になるんですか。これにも入らない。

原田委員。

○原田委員 私の言い方が悪かったのかも分かりません。2月、3月に原因の究明のような話をして、早めに無投票の打開策であるとか、定数問題というものに取りかかって、それで次のアンケートというのは原因がどうかというアンケートではなくて、恐らく具体的にもう、じゃあどういふような策を取ったら無投票にならないのかとか、定数は何名にすべきなのかとかいうような、具体的な数字を出したりとかというアンケートになるんじゃないかと私は勝手に思っているんですが、そうだとすると、やはりそこが、これから今のアンケートに向けて焦点になってくるのが、1番上ではなくて2番目、3番目のところが焦点になってくるのかなと思いますので、そこを早めに取りかかったほうがいいんじゃないかなと。

原因も原因でももちろん究明しなくちゃいけないし、議論はしなくちゃいけないとは思っていますが、それはそれで、できる限りその期間を短くして、具体的な無投票の打開策、定数問題について早くに触れ始めたほうがよいんじゃないかという意見です。

(発言する者あり)

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 これはあくまで案なので、まず1月にアンケートについて出てくるわけですね。それであと原因究明。フレキシブルにこれを固定的に考えるんじゃないでなくて、これが早く行ったら次も早くするとか、とにかくアンケートをするというのが決まっているのであれば、それをいつにするかというのは決めなあかんにしても、その原因究明を2回にするかどうかということにとらわれるんじゃないでなくて、まず取りあえず1月がどうなんか、それからどんだん次はどうしたらいいんかということを考えていけばええんじゃないかと私は思います。

○網谷委員長 原田委員の言うことも分からなくはないんですが、やはりある程度。

原田委員。

○原田委員 スケジュールはこれ、書いてあったので、そういうふうにしたほうがいいんじゃないかなと思っただけで、別にそれにとらわれているわけではありませんので、小中委員の意見でよいと思います。

○網谷委員長 これも文章として書いておるんですが、これいろんな意見が出るのはもう分かり切っておりますから。流動的に、1か月毎、1か月一遍の委員会を開こうと思いますが、どういう意見が出るか分かりませんので、大まかにはこういうスケジュールでいって、9月には結論を出すという意味で、その間の委員会ではいろんな意見が出るのはもう確実にございますので、それなりに、また進めてまいりたいと思います。

先ほどの小田上委員が言われたように、2回目をどうするかという、これも含めて、これを議論しながら決めていただければと思いますので。よろしいですか。

○小田上委員 すいません、月に1回というのを今委員長言われましたけど、正直月に1回だとあと実質的に話ができるのが、定数について話ができるのが、五、六回ぐらいなのか

など思うんですね。そうなってくると、1回の時間が長くなるのか、回数が増えるというのは前々から委員長おっしゃってますけども、例えばですけど、2～4月と同じ議題が3回重なってますよね。これ2個にずらして7月はもう空欄にしておいて、一応クッションとしてこの月は取っておくけど、この2か月でもう必ずやり切るんだぐらいの感じで回数を増やすとか、というふうにやっていかないと、来月もあるし今回はこの程度でみたいなことになりかねないかなという心配と、あとこういう7月くらいに一旦取っておいてあげて、例えばですけど、皆さん市民の方の意見を聞きながら改革に挑まれると思うんですけど、直接市民の方から意見を聞く場がほしいとか、そういう話になるかもしれないですし、何かこうもうフレキシブルにということであれば、1個クッションの月を置いておくというのも1つの手なのかなとは思いました。

○網谷委員長 クッションという意味がよく分からない。

小田上委員。

○小田上委員 予備日として、予備の月として、7月を丸ごと空けておくほうが、これをしてほしいなあというのがという、もし項目が出た場合に対応できるんじゃないかなというふうに思いました。

○網谷委員長 ありがとうございます。

私の認識と違うんですが、要するに一応これ、スケジュールとしては書いておりますが、先ほど申しましたようにこの資料を検討してくれとか、ここでこれを研究してくれとかいうような、これは大いに出してもらって結構なんですよね。それでも時間が足らなくなれば、前回委員会で言いましたように、週に一遍でも毎日でもやらないけんようになるかも分かりません、それは。9月の結論を出すためにはね。そういう私の気持ちなんですけど、それを漠然とこれを研究してくれ、これを何してくれと言って、日にちを増やしてくれとか言われればそれはそれでもいいんですが、その辺のところ皆さんどういうふうに考えておられますか。

私は、9月までに出して、条例改正の文章を作って、それで議運に出してそれから本会議上程というふうに考えとるんですけど、それじゃあ間に合わんと言われるんなら、その方向にまた持っていくかきませんので、意見がございましたら。

小中委員。

○小中委員 私がフレキシブルにと言ったのは、審議の具合において7月を、別に空ける必要は全くなくて、そのまんま審議の動向を見て次どうするかというのは考えて、それで足りないようだったら委員長がまた増やせばいいんであって、基本的に考え方、条例改正するということは、定数を変えるということですから、その結論に至るかどうか、これは現状では分からないわけですよ。だから取りあえずは、これはあくまでも委員長の作った案は案として、まあ取りあえず1月はどうするか。それから流れというか、そのスピードを見ながら、次はすぐにこれをやらないかとかそういうふうにやればええんで、1か月を丸々空けて、そんな全くナンセンスなことをする必要は私はないと思います。

○小田上委員 すみません、別に委員会での議論がどうこうと言うつもりはまだないんですけど、何か進んだかというのと何も進んでないじゃないですか。何か進んだかと言われると、

8月にこの議会改革特別委員会が始まって、定数を取り上げましょうねってなって、決まったことと言えば定数を取り上げるのとアンケートをやることと。なので、早く議論に入るべきだなとは思いますが、議論していくにはそれぞれ準備も必要だろうというところで、1日長くやるのも結構ですが、回数を増やすとか、そういう機会が必要なんじゃないかなと思って、こういう課題を出されているのであれば、いつまでには終わると、いつまでには終わると全部決めておかないと、今日はこの程度で、今日はこの程度でとなっていくって、結局時間が足りないってなるような気がするんで、それを心配しているだけなので、それがないよ、大丈夫ということであれば別に7月空けてなくても大丈夫ですよ。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 いやだから結論は、9月には結論を出すとなっているんだから、それで十分だと思います。だからそれに、9月に結論が出ないようだったら、もうその特別改革委員会の委員全部、首ですわ。そういうことですわ。

○網谷委員長 一応、あくまでも委員長個人の計画では、9月には結論を出すという意味でございます。

それでそのために、資料を取り寄せたり、これこれについては研究しないということがありましたら、それなりにまた平行して審議すればいいんじゃないかという、安易に考えていると言われればそうかも分かりませんが、今この時点で9月に結論を出せんようなスケジュールではないと私自身は思うんですが、今小田上委員が言われたように、これでは何しとらんか分からんようなこと言われましたら、どうなのかなと思ひまして。皆さんの意見も聞いてみたいと思ひまして。

どちらにしましても、これからの先の話でございますので、今日のところは一応、議員定数問題と、前回市議会議員選挙で無投票との因果関係という項目と、それから無投票を回避するための打開策、それから議員定数の在り方についての考え、それからそのほかという意見を、アンケートとして全議員の皆さんに提出していただくということが決まったことと、それから提出期限が今月の12月26日までということと、次回の開催日が来年1月12日ということが、今のところ決まったわけでございます。

ほかに今日の委員会で決めることがございましたら。小田上委員の言い方からすると。

原田委員。

○原田委員 アンケートを26日までに出示します、それを集約してというか、PDFにして全議員に掲載、見ていただけるようにしますということは、次回の議会改革特別委員会の前までに、皆さんそれを読まれて、把握して臨まれるわけですよ。そうすると、これはだから具体的に次回のお話、この改革の中での議論というのは、もうそのアンケートの中身だと思ひんですけど、その中でももう、議論の内容にもよるとは思ひんですけど、ただもう1項目の原因という部分、一番最初の原因です、無投票になった原因とかいうところにもう入っていてもいいんじゃないかなとは思ひますが、その辺の宿題みたいなものがあれば、いろいろ考えておく、時間も十分ありますので考えておけるんですけど、ただ漠然とアンケートに対して何か議論をするということじゃなくて、私は何かそこまで行けるような気もするんですが、その1項目目のアンケートの内容に踏み込んで話ができるん

じゃないかと思うんですけど。それは私の個人的な意見なので。

○網谷委員長 次回、もちろんですよ。

今、原田委員の言われたことは、1月にこれが入っていないという意味、2月の項目が無投票の因果関係が。

○原田委員 スケジュール的なものは流動的でいいと思いますから、みんなで議論していく中で決めていってもいいかなど。今の全体的なスケジュールは委員長お考えになられたので、それはそれでいいと思うんですけど、それは流動的に、例えば今日だったら、今日が終わって次どうしようとかかいうことはいろいろ変更があっても、それはしかるべきと思いますので、それは全然よいと思うんですけど、議論を早く進めていくという意味において、小田上委員も先ほど言われたんですけど、やっぱり時間的なものもあると思いますから、具体的にそういう、仮に何となく2時間と決まっていますけど、別に2時間と決まっているわけじゃないと思いますので、その辺り皆さんでどの辺をまず次、議論するかというところまで決めておいていただくと、いろいろ私も勉強しておきやすいかなというので、そのアンケートが出ます、それについての全体的な議論はするとしても、具体的に無投票の原因ということについて、議論が始まってもいいんじゃないかなというのが私の意見です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

原田委員の言われたことは全部書いておると思います、私が。大雑把文章にしとるからそういう。1月は全議員16名からのアンケートの調査研究となっておりますので、このアンケートの中には先ほど申したような無投票との因果関係とか、全部これ、皆さんの意見の中に入ろうかと思えます。

その中での協議ということでございますので、この協議は結論が出ると思えますよ。皆さんの、16名の意見を参考にしているということでございますので、それはそういうことでございます。私の言うことは理解できませんか。

議長。

○賀屋議長 大分時間もたってまいりましたし、このスケジュールについてはあくまでも案ということで、進捗の状況によって当然前倒しも出てくるし、この中でいろんな意見が出てまた次に進展していくと、そのことについてまた議論をしていく、また調査も必要になるかも分かりませんし、その辺は状況の推移をしっかり見守りながら、皆さんで9月に向けて議論を進めていけばいいんじゃないかと思うんです。

それと、1月にどのような内容で話をするかということについては、やはり出てきたアンケートの中身をしっかり皆さんで見させていただいて、その中で、無記名ではありますけれども、こういうふう書いてあるけどこれはどういうことかねとかいう、そのアンケートの中身についての、周知あるいは理解が共有されるかどうかというのを、まずは皆さんの中で意見を出していただくとかいう方向で進めれば、ある程度課題の共有はできるかなというふうに思えます。

それで続いて、次の2月にはどういう方向で議論をするかというのを、その時点でまた皆さんの御意見の中で決めていけばいいんじゃないかと。

つまり毎回の会の中で、方向性が決まってくるし、また、あくまでもこれはスケジュール案でありますので、それを柔軟に対応していけばいいんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

○網谷委員長 以上で、次回までの行動といたしますか、皆さんにやっていただくことは決まったと思いますので、時間もかなりたってまいりましたので、この辺で。

その他のほうで何かありましたら。

北地委員。

○北地委員 この委員会の流れについては委員長の頭の中にしっかり入っていると思って、9月には結論を出すということで、来年から本格的にはスタートになろうと思うんですが、私の個人的感想としては、あまり終盤でばたばたしたくないので、極力前倒しで、スピードアップして審議を進めていっていただければと思いますので、その辺よろしくお願いたします。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかにございます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 それでは今日のところはこれくらいで、議会改革特別委員会は終了させていただきます。

お疲れさまでした。

11時52分 閉会